

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375300213		
法人名	社会福祉法人 高坂福祉会		
事業所名	グループホーム 扶桑苑		
所在地	愛知県丹羽郡扶桑町大字山那字番所下83-5		
自己評価作成日	平成24年2月8日	評価結果市町村受理日	平成25年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成25年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入所者1人1人ができるだけ役割を持ち、共同での生活の中で、その人らしくいる事ができること。、入所者の方にとっては、生活をする場であるので、安心と楽しく日々の生活が送れるよう支援をしています。
 ・スタッフと利用者が互いに支え合い、利用者のできることを引き出せるような関わりを目指している。
 年に1度の行楽、季節に応じた行事(併設特養合同)(夏祭り・運動会・クリスマス会)などご家族・地域の方の協力の下に盛大に行われています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園豊かな、自然に囲まれ利用者が慣れ親しんだ環境の中、それぞれに役割を持ち、利用者職員が協力し合い、地域の人々に支えられながら、日々の生活を送っている。地区のボランティアの人とは、庭や植木の手入れ、日々のレクリエーションや外出時の協力など日常的に交流しており、利用者顔馴染みとなり、お互いを尊重し合っている。法人全体で春・夏に敷地内で行なう祭りは、地域の住民が400名程参加している。利用者・家族、地域住民と祭りを共に楽しみ交流を深める事により、理念である「地域福祉・介護の拠点」として地域と一緒に高齢者を支えていく、重要な役割を果たしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由と人権の尊重」「地域福祉・介護の拠点」「出会い・ふれあいの輪」を理念に、その人らしさやできることを大切にし、感謝の言葉を心掛けている。朝礼・夕礼では働きやすい職場を目指したスローガンを唱和している。	法人共通の理念があり、新入職時に施設長より解りやすく説明し、ケアに活かせるよう指導している。「自由と人権の尊重」について、利用者への挨拶や感謝の言葉かけを実践し、職員間の会話にも注意して日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の「歩こう会」には区長様をはじめとする住民の皆様の協力で参加。 地域のスーパーへも積極的に出掛けるようにしている。 乳酸飲料の定期訪問があり、販売員との交流を深めている。	地域の小学生や中学生の福祉体験を受け入れ、地区ボランティアの協力で、地域の行事に積極的に参加できている。法人全体での祭りには、参加者が400人程の参加があった。、地域の行事として毎年、地域住民や利用者が交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症があってもできることを支援する一環でできる方には雑巾作り(縫い物)を行い、夏祭り時にチャリティー販売。それにより「役割の大切さ」「達成感」等が認知症の方への「安心」につながることを少しでもお伝えできたかと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の日常生活の様子や行事の様子を写真など見ていただきながら説明させていただいている。また、行事等には委員の皆様にも参加していただき一緒に楽しんでいただいている。	グループホームでの取り組みを、見やすいように写真をファイルに整理し、参加者へ報告している。徘徊時の対応や行事への参加要請を行い、町職員・地域包括支援センター職員からは、他事業所の情報収集し運営に反映している。	24年度は、運営推進会議を4回開催している。今後は6回開催することを期待している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に参加いただいている。 認定調査時には調査員との情報交換を行い連携をとっている。 地区の赤十字支部の方々の協力で毎年作品展を開催、出品している。	町は協力的で、ボランティアの調整、お祭りや敬老の祝いに町長の表敬訪問があり、利用者との定期的な交流している。町内グループホーム合同研修会に参加し、町職員や他事業所と悩みや課題を話し合い、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。 玄関も通常施錠は行っていない。 居室の施錠はご利用者で希望されることもあり、場合により実施。門扉は施錠、外出や散歩等は職員が付き添っている。	現在、身体拘束は行っていない。年に1回の研修や併設する特別養護老人ホームでの発生事例を参考に勉強会を開催し、身体拘束について話し合いケアに活かしている。玄関の施錠も、安全を考慮し必要最小限にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体会議での「法令順守」研修にて関連内容の研修を実施済み。(年1回実施) 今年度、認知症介護実践者研修(2名参加)にて関連内容の講習済み(24年度実績)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度における改めでの研修参加はなかったが、各自が職場内外より情報収集しその都度学ぶよう心がけている。日常的には知識を使う場面はほとんどないが、資料等は常時手元においてある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約(重要事項説明)時には、途中途中で「ここまでで質問等はありませんか」等伺い、理解を確認しながら進めるよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会にて、行事説明や意見交換の場を設けている。また、毎月GH新聞を発行し、近況報告を行ったり、面会の際には、積極的に交流し信頼関係の構築に努め、ご意見・ご要望等伺うようにしている。	利用者には外出時の車中など個別対応時、家族には面会時や半年に一回のケアプラン見直し時に意見や要望を聞いている。年に1回ある家族アンケートも参考にして、職員間で話し合い運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	隔月開催の会議にて、意見交換の場を設けている。常時、職員が顔を合わせられる環境のため、日常レベルでもその都度、改善案等出し合い、見直しを行えるよう心がけている。	年に1回職員に対して、自己評価・上司評価を行い、施設長と1年の振り返りや、運営に対する意見などを聞いている。施設長と主任は月1回、施設全体の主任会で、職員の補充、備品の購入や補修など現場の課題を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの休み希望はできるだけ叶えられるよう勤務表を作成している。 職員は年度末に人事考課をうけ、得意な事と苦手な事を知り、各々が向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<内部研修> 介護体験研修(利用者の抱えている不自由さを体験) 職員全体会議での各種研修 <外部研修> 北欧式トランスファー研修(1名) 認知症介護実践者研修(2名)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームホーム研修会に定期参加し、意見の交換など交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に初回面談時には、まずはご本人様との信頼関係の構築に重点を置き、本人様の人柄などの理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階では、ご家族様のこれまでのご苦労等に対して、共感的姿勢で傾聴していく中で信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント資料をもとに身体面・認知症等の状況及び、本人ご家族の希望など総合的観点から入所を決定していく。最終的には診断書の状況によって可否を判断している。併設の特養があるため、サービスの申し込みやサービスの違いを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活における家事全般の中で役割を分担しながら助け合い、職員は「いつもありがとうございます。」「助かります」等感謝の言葉を欠かさないよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行の「GH新聞」にて近況報告を行っている。季節行事へのご家族の参加。面会時、コミュニケーションを多くとるよう心がけている。又、通院時のご家族の付き添いなど協力もお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴や本人、家族へ聞き取りなどから、より狭い地域へ出向きたいと考えている。(スーパー・神社など実際に行かれていた場所)	地域にあるスーパーや喫茶店へ出かけ、買い物や喫茶タイムを楽しみながら継続的な交流をしている。電話や手紙のやりとりも必要に応じ支援し、家族の協力で外食や旅行など馴染みの場所へ出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的には孤立しないよう席の配慮など工夫している。ただ、一人でゆっくりしたい時もある方もみえるため、メリハリをつけて生活のバランスをとっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時等、新しい生活環境の中へ移って行く際もこれまでの生活が少しでも尊重され継続できるよう本人様の情報の提供をし、連携に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や訴えは記録し把握するよう努めている。意思の疎通が難しい方にも表情や態度などから気持ちを汲みとれるよう努めるとともにご家族からお話をお聞きし支援につなげられるようにしている。	利用者との会話の中から希望や意向の把握に努め、申し送りノートや生活記録の中に具体的な言葉として残し、家族から情報を得て本人の要望に沿う支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人、ご家族からこれまでの生活歴などを伺うようにしている。また、入所後も引き続きその方やご家族から新たな情報も伺えるようコミュニケーションを積極的にはかるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子は毎日、午前・午後とに分け記録していつている。また、変化があれば申し送りノートにも記入し、情報の共有に努めている。バイタル・食事摂取量・水分摂取量・排泄(排便)記録は毎日記録を残している。毎月、生活の様子を含め、「生活状況報告書」をまとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員とケアマネが中心となり、ケアプランを作成、6カ月毎に見直している。見直し前には再アセスメントを実施、担当者会議を実施し、作成していつている。面会の際などにご家族の意向も伺うようにしている。本人の状況が大きく変化した場合は現状に即した計画に都度作り替えている。	ケアプランは長期と短期で分かりやすく作成されている。サービス担当者会議時、利用者と家族の両方に聞き、それを思考調査書に文書で残している。サービス内容は利用者本位の立場で作成していつ、具体的で職員、本人、家族全員が分かりやすい物となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録ファイル及び申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。言葉や仕草、表情等を記録していくことで、その後の介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の付き添い等、ご家族が都合が悪い時は職員が同行している。重度化に関しては、隣接特養でのノウハウを取り入れ、介護に生かしている。食事形態の変化に対応するため、隣接特養厨房よりゼリー食の提供を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんの定期的な訪問があり、一緒に歌を唄って下さったり、作品作りを一緒に行ったりして下さり、交流を深めている。 運営推進委員会を通して、地域の方と情報交換をしたり、協力を得たりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の月2回の往診や、協力医についてその他、ご希望のかかりつけ医の受診も可能であることを説明している。	近隣のクリニックからの往診が定期的であり、隣接の特別養護老人ホームの歯科往診も利用できる。かかりつけ医については家族が対応だが、他の専門医についても連携は出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接特養看護師や嘱託医の看護師に相談できる体制があり、アドバイスを受け対応ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関にすみやかな情報の提供を行う。 退院時にはMSWと退院調整を行う。必ず直接、出向いて、本人様が再度GHでの生活が可能か状態を確認し、今後の生活上の注意などの説明を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所者の高齢化に伴い、体調の変化があるごとにご家族と話し合うように努めている。GHとしてできること、できないことを説明して理解を求めている。	食事が取れなくなるなど、医療依存度がたかくなつた場合、家族と相談の上、今後の方向性を決定している。入所契約時の重要事項で、重度化や終末期に向けた方針の確認と同意を頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の「緊急対応マニュアル」を基に緊急時には隣接特養にも協力を要請できる体制がある。 法人内部における救命講習にも定期的に参加するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間や昼間を想定した避難訓練を定期に実施。入所者も参加し、心構えを作っている。 食料品の備蓄倉庫がある。	年2回の隣接の特別養護老人ホーム合同の避難訓練を行い、3日分の食料、水分、おむつ、救命倉庫に薬を備蓄している。来年から、当地域内で、近隣災害協定を結び災害時の協力体制が出来る予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者とは家庭的で親しみのある関係を大切にしながらも、馴れ合いにはならないよう言葉遣いには、職員各々が注意しあえるよう心がけている。	入室時にノックをして入ったり、挨拶、入浴時の扉を閉めるなどにも注意をはらい、利用者の呼び方、声かけにも年長者としての敬意をもち実践している。利用者の気持ちを大切に、基本は敬語で、さりげないケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者が物事を決定しやすいように「～しましょうか？」と依頼型でお話するように心がけている。意思表示が困難な方に対しても、言葉掛けは大切と考え、より答えやすさに配慮した問いかけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者各々の生活リズムの違いなども尊重し、支援している。(朝起きられない日もある等) また、その時その時の声にもできるだけ即座に対応できるように職員間連携に努め、フットワークの良い対応を目指して行きたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回移動美容室にて、カット、顔そり、毛染めなど希望に応じて行っている。 衣料品の購入も外出可能な方には出来るだけ買い物に出かけ、ショッピングを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行うことができる方には食事の下ごしらえ、配膳準備、片づけ等、一緒に行なったり時にはほとんど行っていただいたりしている。 クリスマス会では入所者の方の得意料理をバイキングの一品として提供した。 毎食、職員と一緒に食卓を囲んで、楽しみながら食事がとれるよう心がけている。	冷蔵庫の食材を見て、利用者と一緒にバランスを考えつつ献立をたて、不足品の買い物に行き、できる範囲で利用者も手伝っている。誕生日やクリスマスは特別メニューが用意される。また、隣接の特別養護老人ホームと合同で、年2～3回板前の来苑で、握りずしやバイキングを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が利用者と一緒に食事をする中で好みや嫌いな物、食事・水分量の把握に努めている。異変があれば、都度申し送り、情報の共有・引き継ぎに努めている。食事摂取量が低下していている方については医師・ご家族と相談し、エンシュア等の補食も検討・導入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の、本人にあわせた形での口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持に努めている。 歯科医(歯科衛生士)に定期的にかかり、口腔ケア等の指導を受けてみえるかたもおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握している。基本的にはトイレでの排泄を行っているが、体調不良時等一時的にオムツで対応することもある。立位がとれない方にも2人介助でトイレに座って頂いている。	トイレでの立位、座位がとれる、トイレまでの歩行など様子を見つつ、習慣も考慮に入れ、利用者一人ひとりに合った声かけをしている。夜間は安眠の為にオムツにすることもありますが、パットなどに工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基本的には、日々の食生活では食物繊維の多い食品や乳製品・水分を多くとって頂けるよう心がけている。現状、運動不足になりがちではあるため、散歩や運動の機械を増やして行きたい。医師と相談し、下剤等処方していただくこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に毎日実施している。季節により”菖蒲湯””ゆず湯”など実施。GH設備での入浴が困難な方へは隣接特養の寝台浴を使用し入浴を行っている。	希望があれば、毎日入浴が可能である。入浴拒否が見られる場合は、入浴状況をその都度、記入し言葉を変えたり接し方を変えたり試行錯誤し入浴してもらえるよう努力をしている。入浴状況記入例は一人、数ページに及ぶこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温・湿度調整を行う、快適な環境作りを心がけている。天気の良い日は布団を干すようにしている。日中はソファーでもゆっくりしていただいたり、体調によっては居室で休むことができるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人ファイルや月間の報告書で確認するようにしている。薬の管理は手順に従い、誤薬防止に努めている。新しい薬を服用の際は状態の変化など気にかけて、問題があれば医師に相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者の得意なこと(苦手なこと)や持ち味を職員が理解し、発揮する場を創出できるように支援を心がけている。やって頂いた後は常に感謝の言葉を忘れない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーへの買い物を中心に外出の機会を作っている。寒い時期は隣接特養の喫茶や館内の散歩なども行っている。年1回の行楽はご家族・ボランティアの協力を得て今年度は”花フェスタ記念公園”へ出かけた。	買い物、喫茶店、広い苑庭での散歩は日常的に行われている。遠出外出は、年一回マイクロバスにて、利用者、ボランティア、多くの家族も参加し楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方も多くいらっしゃるが、買い物の支払いの際などは相手方にも理解していただいたうえで、出来る限り、直接、支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内の公衆電話が自由に使えるようになっている。相手方へのスムーズな取り次ぎを職員が行うこともある。 年賀状などご家族へ出せるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すために、玄関や居間には季節の飾りつけを行っている。(正月・雑祭り・七夕・クリスマス等) 壁には行事の写真等掲示しており、面会の際などの会話にも一役かっている。	全館バリアフリーで廊下も広く、車椅子での移動は充分である。利用者と職員の手作り作品が玄関から居間にかけて飾り季節を感じる事が出来る。居間の窓際にはソファがあり、テレビを見つつ皆で寛げ、廊下にもソファがあり少人数が寛げる場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端や途中にソファ、長椅子を設置し、居間・居室以外にも過ごせる場所を作っている。(玄関の長椅子に座り、金魚を眺めてみえる方もおられる)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に、本人の安心のため、使い慣れたタンス等の家具など有効に使用してお部屋作りをしていくことを説明している。 入所者自ら居室をより快適にしていこうとする要望は無くなってきているが、より温かみのある居室作りは今後の課題である。	ベットは備え付けであるが、馴染みのタンスや小物を持ち込み、思い出の家族の写真を飾り、壁には自作の手芸が飾ってあり寛げる空間になっている。利用者の安全の為、離床センサーが備えてある居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所はわかりやすく表示したり、タンスなどは収納場所にシールを貼る等分かりやすくしている。居室のベッドは一部低床タイプを導入し、本人の立ち上がりのしやすい位置への調整も可能となっている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2375300213
事業所名	グループホーム 扶桑苑

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	小学校の福祉訪問や中学校の職場体験、専門学校の実習を受け入れ、認知症高齢者の理解や交流の場を地域に提供している。婦人会による日本舞踊や地元中学校吹奏楽部の発表、子供会によるお神輿の訪問など交流が多く、地域も協力的である。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	年に4回の開催し毎回、町職員・地域包括支援センター職員・区長・家族が参加されている。参加者への説明のため、グループホームでの取り組みを見やすいように写真をファイルに整理し、利用者の日常を伝えている。参加者とは、利用者の徘徊時の対応協力や行事への参加要請、他の事業所の取り組みなど情報収集し運営に反映している。事業所としては年に4回の開催が妥当と考えているため、条例で定められている、2ヶ月に1回以上の開催が行えていない。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	地域包括支援センター主催の「町内グループホーム合同研修会」に参加し、地域包括支援センター職員・他事業所職員と意見交換している。町とは、町長の表敬訪問や日赤ボランティアの日程調整など非常に協力的で、町と良い関係が築けている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	家族会としては年に1回開催、その他に春・夏の祭り、秋の行楽やクリスマス会など家族が参加できる行事を複数回開催している。家族にはグループホーム新聞を毎月送り、利用者の近況や行事予定の案内など報告し、苦情や要望については、面会時に随時伺い、その都度改善できるよう職員間で話し合っている。具体的な苦情申立先や受付機関を契約時に書面にて説明し、家族の了解を得ている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	×
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		×

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	×	×	×		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。